The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	私が福井高校でしたこと、考えたこと
Author(s)	中岡, 成文
Citation	臨床哲学のメチエ. 2003, 11, p. 24-25
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/7966
rights	
Note	

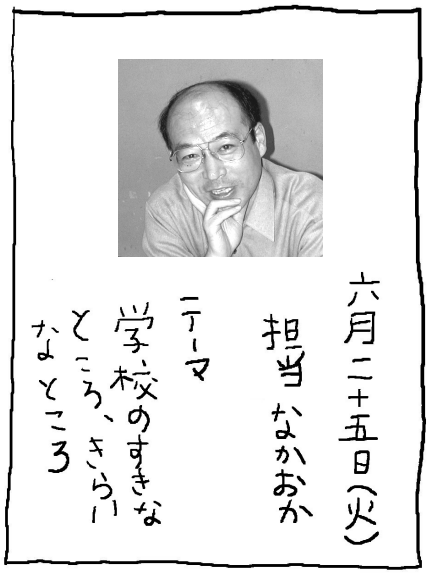
The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

私が福井高校でしたこと、考えたこと

中岡成文



6月25日に福井高校に出かけた。2週間続けて授業を担当する予定だったが、高校の催しのため1週はつぶれてしまった。

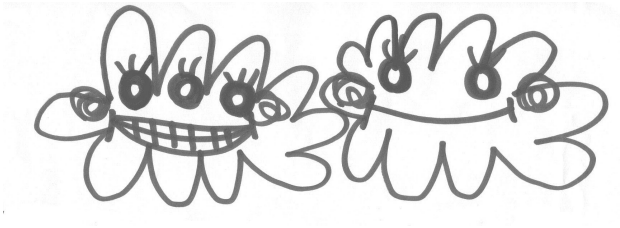
授業をやる側（ふつうは教師だが）からすると、とくに男子生徒たちの間で私語が多いのはやはり気になる。もっとも、「好きなところに座っていいよ」と最初に言ったのは私自身で、これが私語の温床になったかもしれない。そこで、やり方を転換した。休憩時間が終わり、授業が再開されたとき、「言いたいことがあったら、気の合った者同士の私語として言うのではなく、みんなに向けて言う」ように、強く生徒たちに要請したのである。これは大切なことだと思った。私語の仲間に入れない生徒が疎外されることを避ける、教室全体のコミュニケーションを確保するというねらいもある。

私の授業は次にように構成されていた。目的は、「学校とは何をするところか」について考えてもらうことである。次のいくつかの問いを生徒に出し、一人ずつ答えてもらった。各自A4の紙に自分の答えを書き、それを持って順次前に出て、読み上げてもらうのである。そのとき、私の方から発表者に簡単な質問をして、押し出しの弱い生徒をプッシュしたり、気づきにくいポイントを確認したりした。私の出した問いは、1.「学校でできる好きなこと」、2.「学校でやらされるいやなこと」、3.「学校以外でできる好きなこと」、4.（2.の「学校でやらされるいやなこと」に対する自分自身の答えを振り返り）「なぜいやなのか」である。

「学校でできる好きなこと」は、部活や友達としゃべることだという答えが多かった。

ある生徒は「部活」と縦書きし、周りに温泉マークなどさまざまな図形を書き添えていた。図形的な表現もきっと大切なのだろうが、私にはうまく受けとめられなかった。ずいぶん迷ったあと、「今のところ授業中……?（友達がいたら友達と話している時間だと思う?）」と書いた生徒もあって、この煮え切らないように見える言い方のかげでいろいろ考えていることは、質問してみるとわかった。

「学校でやらされるいやなこと」への答え。「学力主義とかいやなじゅ



学校とは何をするところか

ぎょうとか」。「1.人とかかわること（体育でチームを組んだり、調理実習などなど…。）2.ある人（イヤな人）にからまれること。3.定期テスト（これはしょうがない…・）」。「レポート書かされる」。「感想文を書かされる時。→それを読まれるとき　そうじ」。「陸上　勉強できない人をばかにする教師」。「器械体操はイヤ　携たい電話持ってるって自慢する奴がイヤ」（2つの「イヤ」の右上に怒っているしるし）。

「学校以外でできる好きなこと」。軽音楽クラブの男子が複数いるせいか、音楽、テレビ、寝ることという答えがとても多かった。ある生徒は、縦に大きく「睡眠」と書き、その2字の間に横書きで、「てれびにつきる」と書く。あとは四辺に「ねるねるねるねる……」とずっと書き連ねてある。他の答えでは、全面に大きく「ＴＶ」、その後小さく「がみれる」、「あとねれる、音楽をきく、ハジケれる」とあった。「ハジケれる」の意味を尋ねたがはっきりしなかった。生徒たちには通じているらしい。

「学校でやらされるいやなこと」はなぜいやなのか。「せいり的［横の生徒に漢字を尋ねていたがわからなかったらしい］にうけつけないから　かんにさわるから」。「人生　勉強できてもあんまりこのごろ関係ないから!!　勉強しかできないやつのほうがアホやと思う。!!!!!!　」。といった調子だった。

もともとは、哲学的な対話方法論・グループワークであるソクラティク・ダイアローグ（SD）をやりたかった。「学校とは何をするところか」というテーマのもとに、大学の共通教育でSDタイプの授業をやっているので、それと似たことができるかなと思っていた。しかし大学生のような集中力とコミュニケーション能力を高校生に期待するのはむりだと忠告された。それで具体性や参加性を強めるために、A4の紙に各自で答え（や絵）を書いてもらい……という上述の手法を取り入れることにしたのである。このねらいはかなり当たり、生徒の率直な表現を引き出せたと思っている。それを深め、「学校とは何をするところか」というテーマを考察するところまでは行かなかったのは事実であるが、ともあれこのような場をコーディネートしてくれた、会沢さん、高橋さん、三浦君に感謝したい。

（なかおかなりふみ）

イラスト
生徒による
（授業中のプリント）